

4 学年

実践例 (4 A)

<児童提示用>

心に残ったこと感じたことを 感想文に書こう

『プラタナスの木』



1 物語を全文読もう。

○物語を初めて読んだ感想を書こう。

○物語を4つの場面にわけ、大きく変わったことを考えよう。

2 物語をみんなで読み取ろう。

○物語を にまとめよう。

○物語の と で何が変わったのかな？

○ への思いを考えよう。

○作品の心を書こう。



3 感想文を書いてみんなで交流しよう。

○自分の経験と照らしあわそう。

○感想文を書いて友達と交流しよう。

第4学年 国語科学習指導案

1. 単元名「心に残ったことを感想文に書こう」

教材名「プラタナスの木」(光村図書4年)

2. 本単元で付けたい力

○場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。 【C(1)ウ】

○文章を読んで考えたことを発表し合い、一人ひとりの感じ方についてちがいのあることに気づくこと。 【C(1)オ】

3. 単元について

単元観

○本単元は、物語を自分の体験と結び付けて読み進めていくために、読みを深めていく中で心に残ったことを感想文に書く活動を設定した。主題を読み取り、自分の言葉で表すという高学年にもつながることである。

○本教材は、同年代の子どもの子ども達が繰り広げる物語であり、児童にとって同化して読み進めることのできる教材である。中心人物マーちゃんの前に、重要人物であるおじいさんが現れる。おじいさんの不思議な話をもとに、自分が体験したことを通しておじいさんの教えに気づいていく話である。おじいさんの正体をもとに児童は様々な読みをする。様々な伏線をもとに想像を広げながら読む力をつけるには適した教材だといえる。

児童観

○省略

指導観

○第1次では、プラタナスの木の写真を見せ作品を読み、題名にもある「プラタナスの木」のイメージを図りながら読み進めていきたい。そして場面分けをして全体の流れを大きくとらえていきたい。○第2次では、場面の出来事をもとにあらすじを書き物語全体を捉えていく。次に物語のはじめとおわりを比較することで大きく変わったことを捉えさせる。大きな変化を捉えさせることで、プラタナスの木への思いやおじいさんの教えなどの作品の主題に迫っていけるようにする。また、最後には「作品の心」を短い一分で書き表し、第3次の感想文へとつなげていきたい。

○第3次では、まず自分の体験と照らし合わせ活動を行う。その活動は次の感想文の「なか」として生きてくる。書いた感想文は友達と読み合い、それぞれが物語から受け取ったことや心に残ったことを交流していく。

4. 単元構想（単元計画と評価）

単元の目標

- 登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むことができる。
- 読んで考えたことを発表し合い、感じ方の違いに気づくことができる。

単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○物語を読んで、心に残ることに着目しながら感想を述べようとしている。	○場面の移り変わりや出来事、登場人物の心情を、言葉や表現から読み取っている。 ○感想文を交流する中で、同じ物語を読んでも人によって心に残ること、感じることは違うことに気づいている。	○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。

指導と評価の計画（全10時間）

		学習内容	評 価				
			関	読	言	評価規準	評価方法
第一 次	1	○全文を読む。 ・初発の感想を書く。	◎			○物語の全文を読み、感想を書いている。	ノート
	2	○場面わけをする。 ・時・場・人物で場面を分ける。 ・4つの場面で物語を捉えなおす。		◎		○時・場・人物をもとに場面を分け、物語の大きな流れをとらえることができている。	発表 ノート
第二 次	3 4	○あらすじを書く。 ・出来事を捉え、あらすじを書く。		◎		○場面ごとの出来事を短い一文で表すことができている。	発表 ノート
	5 (本時)	○物語のはじめとおわりで変わったことを捉える。 ・前ばなしと後ばなしを比べて大きな変化をとらえる。		◎		○はじめとおわりで大きく変わったことを自分なりに表現することができる。	発表 ノート
	6	○プラタナスへの思いを捉える。 ・プラタナスへの思いの変化からおじいさんの教えるを考える。		◎		○プラタナスへの思いの変化をとらえ、おじいさんの教えるを考えることができている。	発表 ノート
	7	○作品の心を書く。 ・作品が伝えたかったことを一言で表す。		◎	○	○作品の心を一文で表すことができている。 ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。	発表 ノート
	8	○自分の体験と照らし合わせる。 ・自分と似たような経験がなかったか考える。	◎			○自分の体験と重ね合わせて物語を捉えるようとしている。	発表 ノート
第三 次	9 10	○感想文を書き、友達と交流する。 ・「はじめ・中・おわり」の構成で感想文を書く。 ・友達と感想文を読み合う。		◎	○	○自分の感じたことと比べながら友達の感想を聞いている。 ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいて交流している。	ノート

5. 本時の指導（5/10）

（1）目標

○場面の移り変わりに気をつけて、物語のはじめとおわりで大きく変わったことを捉えることができる。

（2）評価規準

B 概ね満足できる状況

◆はじめとおわりで大きく変わったことを自分なりに表現することができる。

- ・4人はもともと仲が良かったけど、プラタナスの木を通してもっと仲良くなった。
- ・プラタナスの木は最初気にしてもいなかったけれど、木への思いが強くなった。

A 十分満足できる状況

◇はじめとおわりで変わったことを、叙述を基にその理由を表現することができる。

- ・「僕たちが幹や枝や葉っぱの代わり」というところから、気に対するみんなの思いが強くなったと思う。
- ・「今でも地下に広がっている根のことを想像していたら、そうしたい気持ちになった」のところから、マーちゃんはおじいさんの言っていることは最初わからなかったけど、台風を経験してからおじいさんの言っていることが分かってこうしたんだと思う。

（3）本時における研究主題の追究

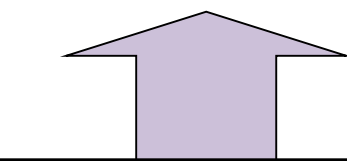
本時における思考力・判断力・表現力

場面と場面の比較をし、作品の大まかな変化をとらえること。

【主体的な思考を促す発問・指示の工夫】

○はじめとおわりで比較して物語を読み取ることで物語の大きな変化を捉えることができる。

○目に見えない変化を問うことで、叙述をもとに想像を膨らまして物語を読み取ることができる。



《軸となる本時の言語活動》
物語のはじめと終わりを比べ、叙述をもとに変化したことを考える。

【板書の工夫】

○板書を左右に分け、はじめとおわりを対比的に板書することによって、場面と場面の対比関係を捉えやすくする。

学習活動	○主な発問や指示・児童の姿	◎支援◆評価（評価方法）
つかむ (5分)	1 挿絵で変わったところと変わらないところをおさえる。	○この2枚の絵で同じところと違うところは何でしょう。 ◎挿絵をもとに本時の課題を明確にする。
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #f0f0f0;"> <p>本時の課題</p> <p>物語のはじめとおわりで変わったことは何だろう。</p> </div>		
考える (10分)・学び合う (20分)	2 文章の中から変わったことと変わらないことをさがす。 3 目に見えない変化を考える。	○他にも物語のはじめとおわりで変わったこと変わらないことはないですか。ノートに書きましょう。 ・プラタナスの木が切られて切り株になってしまったこと。 ・サッカーに熱中していたけど、前ほど熱中しなくなった。 ・ベンチにおじいさんがすわっていたけど、公園に来なくなった。 ・あらまちゃんが「あらま」と言っていたけど、口ぐせを言わなかった。 ○目に見えて変わったものは分かったけれど、変わったのは目に見えるものだけなのかな。 ・おじいさんの言っていることは分からなかったけれど、それが分かり出して気を大切にしようと思いついた。 ・プラタナスの木は最初気にしてもいなかったけれど、木への思いが強くなった。 ・「ぼくたちがみきや枝や葉っぱのかわり」というところから、木に対するみんなの思いが強くなったと思う。
まとめる (10分)	4 学習をふりかえる。	○一番大きく変わったことは何ですか。理由をつけて書きましょう。 わたしは、○○が大きく変わったと思います。それは、はじめ□□だったのが、△△になっているからです。

1. 物語のはじめとおわりで変わったことは？

(1)はじめと終わりを比較する。

◇はじめとおわりの挿絵を提示して、視覚的にもはじめと終わりを比べやすいようにして課題をつかませる。



(2)交流する中で、意見を抽象的な表現にまとめていく。



ぼくは、最初サッカーに熱中していたのが、最後は白熱しなくなったのが変わったと思う。

ぼくは、プラタナスの木への思いが変わったのかなと思いました。



2. 「プラタナスの木への思い」とはという視点でもう一度本文にかえる。

(1)もう一度物語りを読み返す。

◇「プラタナスの木への思い」や「自然の大切さ」という抽象的な考えを全体で共有したものを、具体的には本文のどこから分かるのかを探ることをしていった。



(2)ペアで考えを交流する。



プラタナスの木への思いはここからも分かるんじゃない？

最初は「ふうん。」って言っていたのが、最後は「ぼくたちが枝や葉っぱの代わりだ。」って言っているから、プラタナスへの思いが変わったと思うよ。



3. ふりかえり

◇みんなで考えを交流した後に、振り返りで自分の考えを書きとめている。

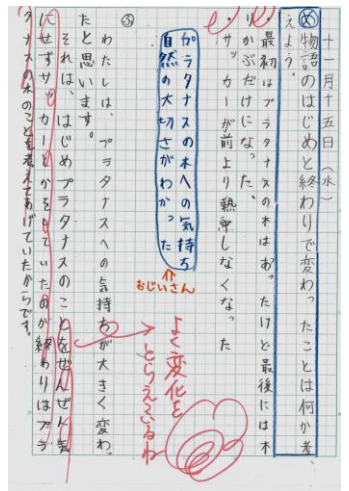


【授業最終の板書】



【主体的・対話的な思考を促すための発問・課題の工夫】

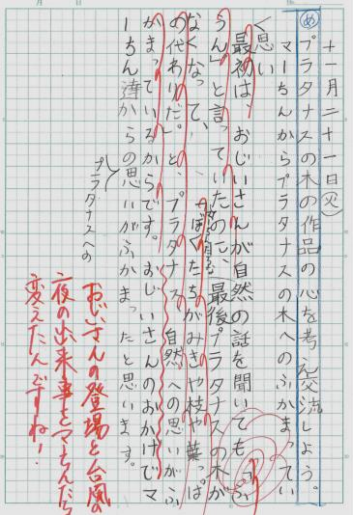
まず導入では、はじめと終わりの挿絵を確認し、物語のはじめと終わりで変わったことを考えさせた。視覚的にプラタナスの木が切りかぶってしまったことが分かるので、どのようなことに着目したらいいのか児童には理解しやすかったのではないかと思います。「物語で変わったことはプラタナスの木が切りかぶってしまったことだけかな。」問うことで、「はじめにはサッカーに熱中していたけど、終わりには白熱しなくなったと書いている。」とか「アラマちゃんが最後にはあらまと言わなかった。」など本文から変化を見つけることができていた。



《児童のふりかえり》

【深い学びの見取り】

また、変化を捉える中で本文には書かれていない変化「プラタナスの木への思いが変わってきている」や「マーチンの自然へ思いが変わってきた」など、目には見えない心の変化を捉えることのできている児童もいたので、全体で交流を行った。そこで、「マーチンたちのプラタナスの木への思い」が分かるところは他にも本文の中にあるか問うことで、児童は今まで見えなかった視点でもう一度物語を読み返すことができたのではないかと思います。



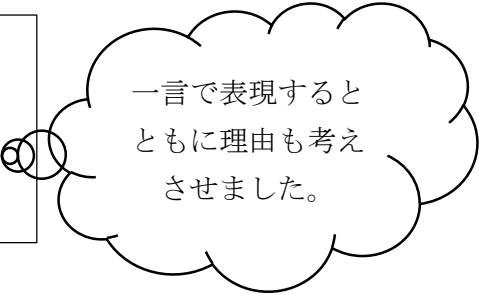
《児童のノートより》

【本事後の実践】

2次の学習の終わりには、「プラタナスの木」の物語を一言でまとめるとい学習を行った。全員が自分の言葉で書き、全体で交流を行った。「どれが一番『プラタナスの木』を一言で表していると思う？」と問うことで、物語の本質にせまることができたのではないかと思います。

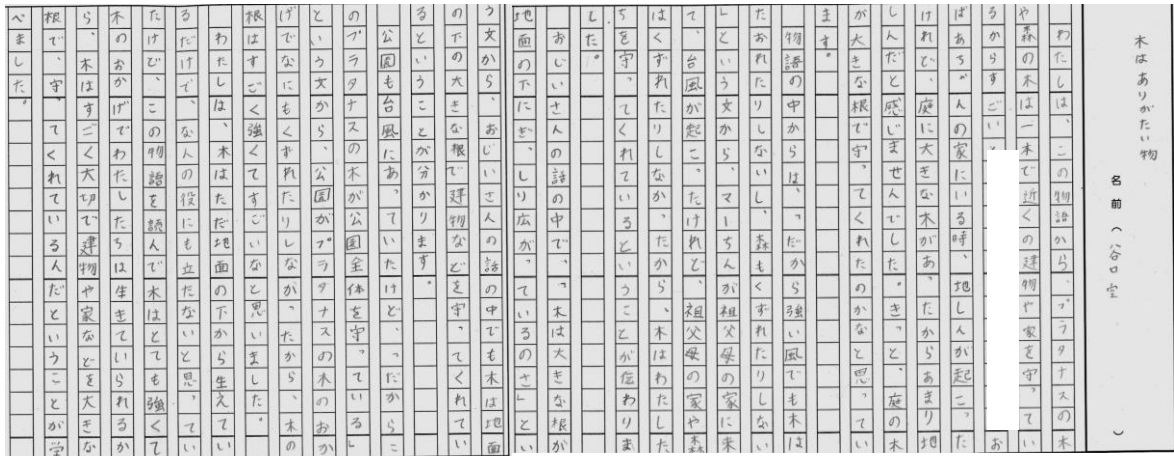
- 《児童が考えた文》

 - 自然の大切さが分かったマーチンたち
 - 木がいつもみんなを守っている
 - プラタナスの木への深まってくる思い



第三次 感想文を書く

第三次には、「プラタナスの木」を読んで感想文を書く活動を位置づけた。2次までの学習内容が生かされるよう構成を組み立てていった。「はじめ」には物語が一番伝えたかったこと、「中」にはどこからそのように感じたのかを本文から引用させ、「おわり」には自分が物語から学んだことを中心に書き進めさせた。また、3次のはじめに、自分もマーチンのような心に変化したような体験が今までになかったか交流しあうことで、感想文の中で自分の体験を入れていくなど話を広げていった児童もいた。どれも2次でみんなで学習したことをもとに書き進めていったので、どの児童も書くことができていた。



《児童の「プラタナスの木」感想文》